DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止
愛叫・冰
-ヒロインズ-

怠惰や堕落からも妖怪は生まれる。
即ち、怠惰や堕落を愛するのは
妖怪を愛するのと同義なのだ。

ゴオオオオ…

どうかしましたか？
紫様

……寒い

まぁ冬ですからねぇ
今日の外は大雪ですよ

そんな
肌蹴た服のままじゃ
お風邪を……

あら
そうなの

それじゃあ
ちょっと来なさい

うわわっ？

あっという間に
布団に引き込まれ
逃げられないよう
力強く抱きしめられる

ギュッ

彼女の温もりが詰まった
狭い空間と
そこに染みこんだ
女性の甘い香りが
頭をくらくらさせていく

この音の感じじゃ
外に出れないぐらいの
大雪なんでしょう？

♡

ムニュ

豊かで柔い胸を
さらに押し付けるように
彼女の手が
首の後ろに回る

ス…

することもないんだし――

どうせならたっぷり愛しあいましょう？

……いいんですか？

嫌？

――まさか

ギュッ…

んっ――

怠惰な生活を嫌う人間はいませんよ

チュパ…
ジュル…
ポロン♡

舌で口腔内を蹂躙しながら
紫の襦袢に手をかけ
ゆっくり肌蹴させていく

ん…♡
チュ…♡
ムニュ♡
ぅあ…♡

布団の外から冷たい外気が
漏れてこないよう
ゆっくりと動きつつ——

ムニュ♡
ムニュ♡
ビクッ♡

顕になった
豊かな乳房を
好き放題堪能する

いやらしく
身体をくねらせる
彼女の皮膚を舌でなぞり

あっ♥

やっ♥

頬、首筋、鎖骨、胸と
舌を滑らせ
最後に乳首を
思うまま吸い上げる

チュプ♥

もう……

結局おっぱい
吸いたいだけ
なんだから……

モミ♥

チュパ♥

モミ♥

チュパ♥

ほら……
大好きなおっぱいで
シてあげるから
交代しましょ？

紫が顔に跨るように
上へ覆いかぶさり
いわゆるシックスナインの
体勢になる

紫の下着が眼前にくると
愚息が柔らかい感触に
包み込まれた

あらあら
随分元気だこと

そんなに
気持ちいい？

チュッ♥

チュプ♥

ビクッ

ピクッ♥

グイッ

チュパ

チュパ

プ……♥

チュプ…♡

レロ…♡

お返しといわんばかりに
秘所に這わした
舌を動かす度

ビクッ♡

ビクッ♡

じゅるっ♡

じゅるる♡

ぴくぴくと
可愛らしく体が跳ね
小さな嬌声が
聞こえてくる

ビクビクッ♡

それに応えるよう
愚息へ柔らかい刺激が
襲い掛かり

んふ……♡
ほんとに元気ね

ドクドクオ…♡

フー♡

フー♡

すっごい
ドロドロ……♡

吐き出された欲望が
紫の胸や顔を
白く染めあげていった

紫の身体を
後ろから抱きしめ
ゆっくりと挿入する

布団を被って
繋がっているのもあり
冬の朝だというのに
お互いの身体は
じっとりと汗ばんでいた

豊かな双丘を
後ろから
好き勝手に弄び

健気に快楽を
我慢する彼女を
存分に可愛がる

んぁ…♥
んっ♥
物足りなさそうな
彼女の唇を塞ぎ
あえてじっくり
ゆっくりねっとりと
時間をかけて腰を動かす
キュンッ♥
どうせ今日は
何もできないのだ
ならば存分に
恋人を可愛がり
楽しむとしよう

ドクッ
ビクッ
ズチュッ♥
ズッ♥
ビクッ
ビュルルッ♥
不意に膣内が
愚息を締め付け
たまらず射精してしまう
キュンッ♥
キュンッ♥
ビクッ♥
体内に流し込まれる
精液に呼応するように
紫も絶頂を迎え
身体を震えさせる
ズッ…
ハーッ♥
ハーッ♥
フッ♥
んぅ……
ハーッ♥

ね……
まだ足りないの……

もっと…
愛して……？

しょぼーん
ぶるぶる
ぎゅーっ
どうした？
橙
ぷーっ
……することないですー
こんな天気じゃお外に出ることもできませんしー
まぁそうだろうねぇ
藍様は無理矢理お仕事いっちゃったけど大丈夫だろうか――
スッ
スッ
……橙？

……えっちな
においがします

ギク

めざとい

……
紫様ばっかり
ずるいですー

おっとっと

言うが早いか
橙の手は着物に伸び
たどたどしい手つきで
愚息を露出させる

ボロッ

ギュッ

ドキ

ドキ

ドキ

チュッ

しばらく
紅潮した顔で見つめた後
おそるおそる
愚息に口をつけ

フッ

グポ

チュパ

ジュポ

フッ

口いっぱいに
愚息を頬張りながら
強くむしゃぶりついてくる

上目遣いでこちらの様子を
不安そうに伺ってくるのは
初心で可愛らしいなぁと思うし

フッ♡

フッ♡

ぐぽ♡

ちゅぽ♡

ちゅぷ♡

ちゅぷ♡

ちゅぷ♡

ちゅぽ♡

小さな口と舌で
一生懸命
奉仕してくれる姿は
背徳感があって
とても興奮する

射精の瞬間
橙の口から愚息を引き抜き
顔に容赦なく精液をかけていく

ぷあっ♡

ビュルル

ドクッ

ひぁっ!?♡

んぇー……
ああ
かわいいなぁ
ドロドロ……
ドロ
汚された顔を
見てると
嗜虐心に火がついて
もっと可愛がって
あげたくなる
ほら橙
足広げて
……はい
ピクッ♥
ぬぷぷ…
んっ……
ヒクッ♥
ぬぷぷ…
んあ……
ガクッ♥

小柄な橙を抱きかかえるようにして幼い割れ目に愚息をあてがい挿入する
ズプッ!
キュン
キュン
フーッ
フーッ
フーッ
キュン
フーッ
押し分けられた狭い膣内は異物を受け入れるように愚息へ絡みついてくる
ズプッ…
フーッ
ふぁ…
ジュル…
チュパ…
フーッ
フリ
フリ
フリ
フーッ
フーッ
安心させるように軽いキスを落とすと尻尾が嬉しそうに揺れ動く

身体を預けてくる
橙の腰を掴み
上下に揺り動かす

快楽を味わうだけの
乱暴な動きだが
耳元で聞こえる
橙の吐息は色を増し

恍惚の表情が
手に取るように
分かる

ビクッ
ビクッ
あっ
ヤっ
ズッ
ズッ
ズッ
ハーッ
ハーッ
キュン
キュン

回された細い腕が
背中を強く
締め付けてくると

橙の身体が
ビクンと大きく震える

ナデ
ナデ
ハッ
ハッ
キュッ
ギュゥ…

橙の絶頂を
押さえつけるように
身体を強く抱きしめ返し

ビュルルッ♥

ビュルルッ

ビュルルッ

ギュウ…

小さな最奥を満たすよう
溢れんばかりの
精液を注ぎこんだ

ゴプ…♥

フーッ♥

フーッ♥

フーッ♥

ギュウ…♥

……雪止まないですね

ゴオオオオ…

あの……

モジ

モジ♥

？

その……

……もう一回はダメ…ですか？

……さすがにそろそろ藍様が戻ってくるだろうし……

じゃ

じゃあ……

その後で……藍様と一緒にいっぱい愛してくださいね…？

ヒョオオオ…

うー寒っ

今年一番の大雪だなこりゃ

どうしてこう忙しい時に限って荒れるかね天気って奴は

おかえりなさいお疲れ様です

ヒュオオオオオ…

ただいまーっと

どうでしたか？仕事の方は

ギシッ

いやー駄目だ駄目だ

視界が真っ白でどうにもならんよ

ワシ

ワシ

雪が弱まるまで動けんなーこりゃ

ご苦労様です
お身体
冷やさないよう……

……ん
そうだなー

それじゃあ……

温めてもらうと
しようじゃないか

ギュー♥

ん……

チュー…

トン…

はーっ♥
はーっ♥
ジュル…♥
いきなり
とても力強く
唇を合わせられ
ドン

そのまま
倒れこむ事も許されず
あっという間に
部屋の隅まで追いやられ
口内に侵入してきた
彼女の舌が
逃がさんとばかりに
自分の舌へと絡みつく
ガッ
グチュ♥
チュプ♥
フーッ♥
チュッ
チュッ♥
ハーッ♥
ガッ
フーッ♥
チュッ
クチュ♥
チュッ
グチュ♥
プチュッ
チュッ
グチュ♥
ムニュ♥

服の上から
愚息を弄んでいた
彼女の指が
服にかかると――
ポロン♥

ギャア
『とても冷えきった』
彼女の指が
熱を持ち始めた愚息を
優しく包み込み
瞬時に全身へと
刺さるような
冷たさが走り抜ける
んー？
どうしたー？
情けない声
あげちゃってー

どうせまた私が冷たい思いをしてる間お楽しみだったんだろう？

これぐらいのお仕置きは我慢しろ

……ごめんなさい

ほら イく時は一緒に……な？

下着を脱がせ尻を突き出すような格好を取らせて愚息を秘所へと擦りつける

ビキ♥

ドキ♥

ドキ♥

藍の秘所は既に濡れ始めており挿入を待ち構えていた

ジュプ…

ジュル…

腕を引っ張りあてがった愚息を一気に膣奥まで挿入する

んあ…♥

あ…♥

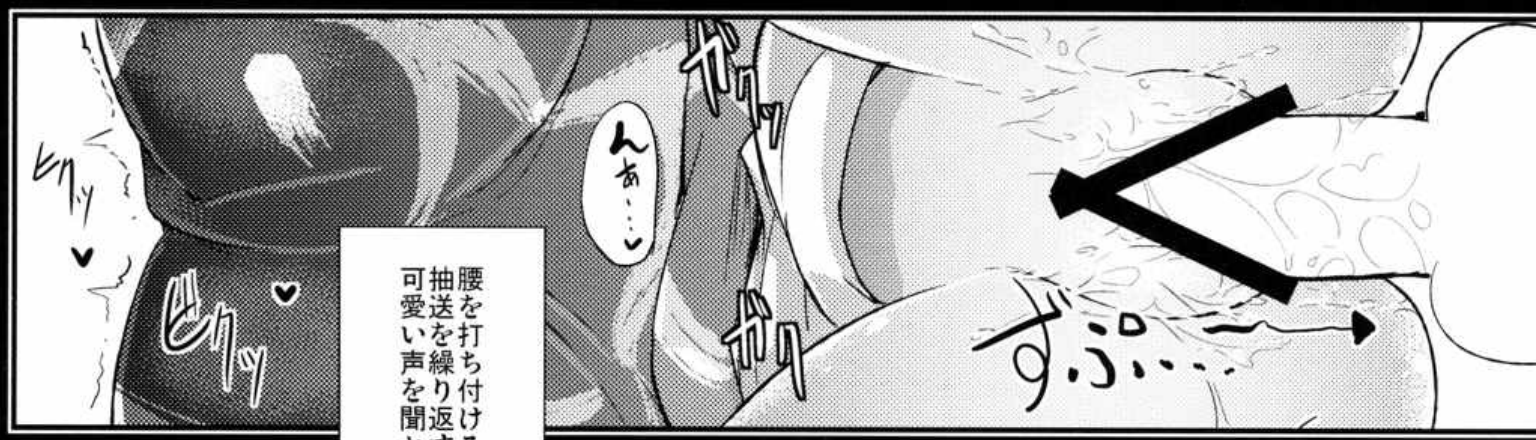
ビクッ♥

ビクッ♥

キュンッ♥

アヘアヘ…

幾分か冷えたおかげか膣内の暖かさが蕩けるような快感を味わわせてくれる



腰を打ち付けるように抽送を繰り返すと可愛い声を聞かせてくれた

片足を持ち上げ
身体をさらに
密着させて
藍の口内を味わう

積極的に
舌を絡ませてきたので
こちらも乱暴気味に
腰を打ち付けてやる

抽送する度に膣内が震え
抱きしめた藍の身体が
ビクンと大きく跳ねる

ビュルッ♥
ビュッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ビュルッ♥
ビュクッ♥
藍の絶頂に合わせ
愚息を締め付けてくる膣内に
大量の欲望を注ぎこむ
お互いが絶頂を迎えると
藍の象徴である尻尾が
身体と一緒に
力なくへたるのが見える

じゅぷ…♥
じゅぷ…♥
ゴポ…♥
フーッ
フーッ
ズル
ズク
ズク
ふふ……
気持ち
よかったか？
まだ
外は大雪だ……
雪が止むまで……
三人で
もっともっと……
たっぷり
愛し合おう
じゃないか……
終

睦言 -ムツミゴト- ·参

◆◆◆◆◆

2015年12月30日　初版発行
コミックマーケット89

発行

みどりねこ

制作

みどり

Webサイト

http://www.pixiv.net/member.php?id=76139

印刷

株式会社　栄光

Mail

midori0014@gmail.com

謝辞

ZUN(上海アリス幻樂団)

◆◆◆◆◆

みどりねこ
Long, Long Ago.
There was a green cat.